

# 卒業 修了

## 新潟大学を卒業するにあたって

人文学部情報文化課程 佐藤 多恵子

「大学生」とは思う存分、何でもやってみることができる貴重な時間であったと思う。

大学4年間は長いようであつという間だった。私にとって大学時代とは何だったのだろうか。まず勉強、勉強=暗記であった高校とは異なり、自分の興味関心と目標が必要になる大学では、本当の意味での「学び」「知識」というものを教わったように思う。

そして対人関係。いい意味でも悪い意味でも刺激を受ける人たちとの出会いがあった。様々なところから人が集まる大学という場は、佐渡ヶ島出身の私にとって新鮮そのものであり、その中で様々な価値観を持つ人たちと接し、交友を深めることは、私の中の視野や価値観を大きく広げてくれた。

「大学生」とは思う存分、何でもやってみることができる貴重な時間であったと思う。後にも先にもこんな恵

まれた身分はない。失敗も後悔もたくさんあるが、それらも含めて自分を成長させてくれた大切な経験である。充実した新潟大学での4年間に、そして私と出会ってくれた多くの人に「ありがとう」を今、いいたい。



本人後ろ

## 大学生活を振り返って

教育人間科学部学校教育課程 木村 優希

私にとっての大学生活は、自分の夢を叶えるための大きな通過点であるとともに、一生の友達との出会いの場でした。

私にとっての大学生活は、自分の夢を叶えるための大きな通過点であるとともに、一生の友達との出会いの場でした。

幼稚園での教育実習では、好奇心旺盛で活発な子どもたちと関わる楽しさと、教師として子どもの思いを理解し、適切に援助する難しさを感じました。その中で、将来本当に進みたい道を見出すことができ、就職試験においても先生になりたいという思いを貫き通すことができました。

また4年間ラクロス部に所属し、8人の気の合う仲間とすばらしき先輩・後輩に出会いました。早朝から頑張った朝練、好きだった夕暮れ時の練習、滞在時間より移動時間の長い仙台遠征、騒ぎ過ぎの飲み会……多くの思い出の中でもより印象的なのは、引退試合を終えた私たち4年生の満足した表情と自然に溢れ出てくる涙でした。今思うと大学生活の中心がラクロスであったからこそ、大学生活の全てにおいて頑張れたのだと思います。

これから社会に出ても、自分を理解してくれる仲間がいることを支えに、常に目標を掲げて自分自身を向上させていきたいです。



本人右から5人目(左から5人目)

## 大学生活を振り返って

法学部法学科 佐々木 絢子

良い影響を与えあえる仲間に出会えたことは私にとって、とても良い思い出になっている。

4年間の大学生活は、振り返ればほんの一瞬のこのようにも思うことが出来るのかもしれない。この4年間で法学という学問だけではなく、社会的な側面や留学を経験し、自分を成長させることができた。そして、様々な良き仲間恵まれたことは私の大学生活においての一つの収穫とも言える。

沢田先生の独占禁止法ゼミでは、私にとっては初めての専門科目でのゼミ活動であった。経済法判例の研究や発表、ゼミ旅行を体験できたことは記憶に新しく、とても充実したものだった。

ドイツ・ミュンスター大学での留学生活では様々な国の学生達と交流を持ち、物事に対する積極的な側面を養い、問題解決へ向けての意欲的な態度を培うことができた。

そして何より、大学生活全体を通して良い影響を与えあえる仲間に出会えたことは私にとって、とても良い思い出になっている。大学生活を楽しめたこと自体が、大変幸運であったと思う。

卒業するにあたり、様々な方にお世話になったことをこの場を借りて心から御礼申し上げたい。



2004年9月軽井沢ゼミ旅行にて

## 大学生活を振り返って

経済学部経営学科 大倉 香織

ラクロス部では、素晴らしいチームメイトに恵まれ、最高の4年間を過ごすことができた。

楽しい時間は早く流れると言われるが、本当にあっという間の4年間だった。

2年次から始まったゼミ活動と4年間続けたラクロス部の両立がすごく大変で毎日悩まされたが、この2つがあったからこそ充実した4年間を過ごすことができた。

ゼミ活動では、あえて厳しいゼミを選び、自分を勉強せざるを得ない環境に置いた。そのおかげで、限られた時間を有効に使い自己の能力を伸ばす力や、今後働いていく上で大いに役に立つであろう専門分野に関する確かな知識を身に付けることができた。

そして、大学生活で一番多くの時間を過ごしたラクロス部では、素晴らしいチームメイトに恵まれ、最高の4年間を過ごすことができた。今年度は、今までにない高レベルな大会へ出場する機会を与えてもらい、恵まれた形で引退することができた。チームメイトが部活内外でいつも支えてくれたからこそ、今、振り返って自信を持って「楽しかった」と言える4年間になった。本当にありがとう。



第11回東北地区ラクロスリーグ戦決勝戦(新潟-COUGARS)2004年10月31日  
(本人前列右から2人目)

# 卒業 修了

## 大学の思い出

理学部生物学科 五十嵐 麻子

何よりの収穫は、生物学科に入ったことで改めて自分は生物が好きだと自覚できたことです。

はじめての推薦で生物学科に入学し、これから迎える大学生活に不安と期待を感じていた1年生の4月が、まるで昨日のこのように思い出されます。振り返ればこれまでの4年間、実験でスケッチに本気になるあまり筋肉痛になったり、はじめてのアルバイトで棚卸に夢中になるあまり爪を割ったり、高校までとは一味違う経験をするのができて思っていた以上に充実した日々を過ごすことができました。

そして何よりの収穫は、生物学科に入ったことで改めて自分は生物が好きだと自覚できたことです。それを子ども達に伝えたいという思いが塾講師という職業に導いてくれたように感じています。この4年間一緒に学んできた皆と別々の進路に向かうことはとても寂しいです。しかし、この学科で学んだ知識や経験、先生方や仲間たちとの思い出を大切にこれから始まる新しい生活を歩んでいきたいと思えます。



本人一番右

## 部活紹介

医学部医学科 堂前 圭太郎

よっしゃ、そろそろ出番や！

今日は4月7日。一年でもっとも緊張する日。一年生への部活紹介が行われる。

はぁ、ほんとやだなぁ。こんなことやってもどうせ部員なんて入らないし。だいたいひかれるんだよね.....女の子とか泣くしさ

まぁ今は服とか着られるからいいけど、一昔前なんて裸にスパッツ一丁で、白塗りだったからなぁ

酒でも飲まなきゃやってられないよ。酔っ払うと踊り間違えるしさ。

ストーリーってどんなだったっけ？ 確か、未開の部族が暴れてて、そこに神が降り立つ。んで人々にラグビーを伝えて、みんなで心を入れ替えて踊るんだったよなぁ。ゴミ袋破るタイミング間違えないようにしなきゃ..... あぁ気持ちよくなってきたぁ いい感じで酔っ払ってきたぞ

よっしゃ、そろそろ出番や！ あれ？先輩！ おきてください！ 出番っすよ！ 潰れてるじゃないですか.....

こうして一人足りないまま、怒涛の芸は開始された。



本人後列左から2人目

## 卒業をむかえて

医学部保健学科検査技術科学専攻 小山 哲秀

共に過ごしてきた仲間の存在。ここで出会うことの出来た全ての人が、僕にはない何かをそっと教えてくれた。

国家試験を控えたこの時期はとにかく勉強に追われる毎日。そんな時に4年間という月日を振り返ってみるといろいろな事が思い出される。1週間びっしりと埋まった時間割表を見て愕然とした2年生最初の日。夜9時近くまで実習をしていたあの日。そんな日々を共に過ごしてきた仲間の存在。ここで出会うことの出来た全ての人が、僕にはない何かをそっと教えてくれた。両親や先生、友人……すべての人が支えてくれたからこそ今の自分がある。たくさんの人に出会えて本当によかった。今はまだ一緒に大学生活を送った友人も試験のことで頭が一杯のようだ。すべてが終わった時、お酒でも飲みながら仲間たちと4年間を振り返っている自分の姿を思い浮かべながら……もう少しがんばろうかな。

大学生活のゴールラインがすぐ目の前にある。あの先にはきっと新たなスタートラインが用意されている事だろう。その先には一体どんな出会いが待っているのだろうか？今からドキドキしながらその日を待つことにしよう。



本人最後列一番左

## 卒業

歯学部歯学科 小原 彰浩

すばらしい仲間にも出会い、たくさんの刺激を受け、たくさんを知った。

先日、失くしていた学生証がでてきた。といっても6年の夏に失くしてしまった古い方のものである。覚えがないことなのだが、本棚の中で本の架にされていた。学生証の写真には学らんを着た入学直前の自分。思わず、“若いなあ。”まだ24の自分が言うのも変なことかもしれないけれど。こんな自分も今年“卒業”を迎える。6年間いろいろなことがあった。すごく充実していたと思う。講義に実習にと歯医者タマゴとしての勉強の日々。すばらしい仲間にも出会い、たくさんの刺激を受け、たくさんを知った。僕はこの6年間のこと、みんなのこと、忘れない。卒業、私は大学院に残り、みんなもそれぞれこれから一歯科医として様々な進路に進んでいく。でも、行先は別々だけれども、僕らは、新大歯35期のメンバーとして、6年間ともに頑張った仲間として、お互いをこれからもずっと刺激しあい、よい歯科医を目指していけたらと思う。そしてあと10年後、一回りも二回りも大きくなってみんなで会いたい。僕もそうなれるよう頑張る。



(写真は旅行先にて。一番下が私)

# 卒業 修了

## 卒業研究の思い出

農学部生産環境科学科 山崎 美佳

新緑のブナ林、満天の星空、紅葉越しの青い空、そしてシラネアオイの凜とした姿に立ちすくみ感動した。

自分の周りには野生動物が住んでいる。当然のことなのだけれど、それを実感できる機会はとても少ない。一昨年秋、卒業研究のテーマで迷っている時に研究室の先輩が調査の手伝いで十和田湖岸のブナ林に連れていってくれた。そこで、森の小さな、小さな動物に出会って一目惚れ。

卒論のテーマは決まったけれど、調査地に選んだ入広瀬村(当時)はまだまだ雪の中。やっと6月に雪が融け、そこから格闘が始まった。かわいい森の動物は、夜行性。懐中電灯をもって森の中を徘徊する夜の調査で、足があざだらけになった。かわいいとはいえ、ちょっと油断をすると指を噛まれた。そして、調査に行くたび、豪雨、台風、そして地震。どうなっているのって泣きそうになったけれど……、新緑のブナ林、満天の星空、紅葉越しの青い空、そしてシラネアオイの凜とした姿に立ちすくみ感動した。本当に毎日、毎日が新鮮だった。

これからは、私が誰かに毎日違う森の表情と森のかわいい動物たちのことを少しでも伝えていけたらいいなと思っている。



## 四年間を振り返って

工学部電気電子工学科 佐藤 圭吾

一人暮らしをすることによって、親のありがたみなどを実感することができました。

新潟大学に入学してからあっという間に大学を卒業することになりました。しかし、振り返ってみると大学生活は非常に充実し、有意義な時間だったと思います。

大学に入ると同時にアパートで一人暮らしを始め、最初のうちは不安なことも多かったのですが、一人暮らしをすることによって、親のありがたみなどを実感することができました。また、大学生活では、思った以上に取得しなければならない教養や専門分野の単位が多く、レポートやテストに苦しんだ毎日でした。しかしその中でも共に夜遅くまで勉強したり、遊びに行ったりする数多くの友人に出会いました。この大学生活4年間で得た友は一生の宝だと私は思います。

今、卒業というひとつの節目に立ち、ここからの一歩が新たな夢への旅立ちであると信じて、様々なことに挑戦していきたいと思います。最後に、お世話になった先生方、研究室の先輩達、そして、4年間の新潟大学での生活を充実なものにしてくれた友達に感謝したいと思います。



本人最前列左から2人目(右から4人目)

## 修了に当たって

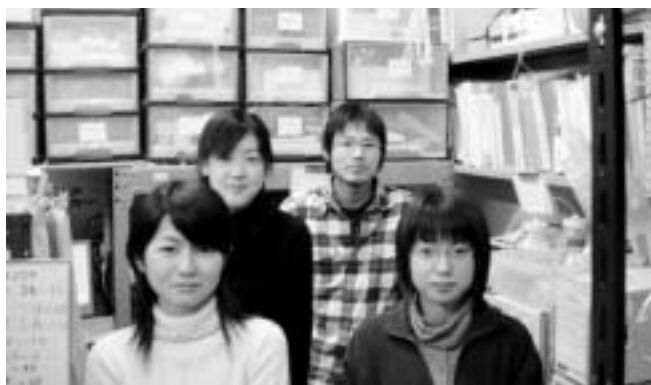
大学院自然科学研究科 菊地 寛子

新潟のそして新潟大学の団結力は、新しい年とともにさらに強まっていると思います。

大学院博士前期課程2年間の研究において、私のこれまでの学生生活の中で、最も密度の濃いものとなりました。私は、大学院からこの新潟大学にきたため、当初はそれこそ右も左も分からない状態からのスタートでした。慣れない環境の中、何度も挫折しかかった私ですが、先生方の丁寧なご指導や研究室の人達の温かな支えにより、この2年間で充実したものとなりました。

去年の新潟は、災害の被害によりとてもつらい年でした。しかし、新潟のそして新潟大学の団結力は、新しい年とともにさらに強まっていると思います。そして、そのような中、最もすばらしく感じたものが人と人との繋がりでした。研究においても、じっくりと腰を据えて挑むことができ、実りの多いものとなりました。

今後は、社会に出ることになりますが、新潟で培った経験を糧に、よりいっそう努力していきたいと思います。本当にありがとうございました。



本人前列右

## 修了にあたって

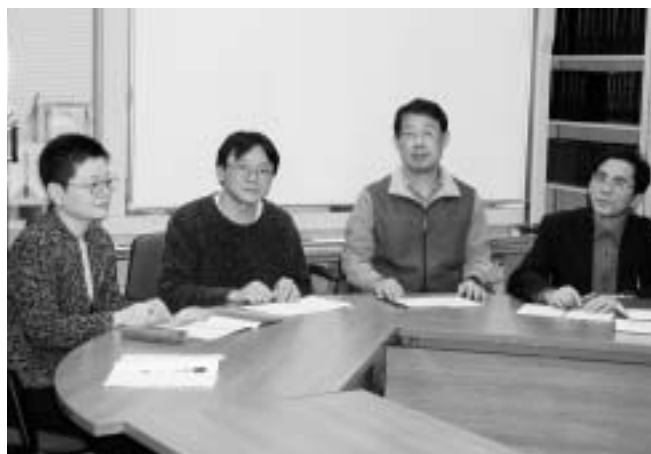
大学院現代社会文化研究科 江 春華

自分を励まし支えてくれた多くの方々に感謝いたします。

小さい頃、博士号を取るの私の夢でした。今、その夢が実現したのです。日本で博士号を取れるなんて全く思いもよりませんでした。けれども、今の心境は複雑です。博士号を取って率直にうれしい一方、現社研での院生生活が何年にもなるので、この研究生活に未練が残るからです。また、新しい旅立ちに多少の不安を感じています。

院生生活を振り返ると、博士論文を書く過程は辛く苦しいものでした。何度も投げ出しそうになりましたが、その都度、指導教官の一人である藤井隆至先生の言葉を思い出しました。「飢え死にした院生はいない」と。この言葉は、先生の院生時代に語り継がれていたようですが、トコトン自分が選んだ道に進めという意味です。自分を励まし支えてくれた多くの方々に感謝いたします。

私は、人生の目標の1つを達成しましたが、これは新しい旅立ちも意味します。感謝の気持ちを忘れずに、前進していきたいと思っています。



本人左から2人目